

NPO法人 共に歩む市民の会 会 報



2015年 1月1日 発行

共に歩む市民の会広報委員会

通巻 第42号

〒241-0022

横浜市旭区鶴ヶ峰2-1-16

☎045-953-6727



当事者のニーズに沿った活動

中川 久美子

仕事柄、横浜市内の市民活動の現場を訪問してお話を聞かせていただきいろいろなことを学ばせてもらう機会が多い。旭区の「ほっとぽっと」にも何回か伺ったことがある。最初のきっかけは、高野静子さんから聞かせてもらったエピソードにある。それは旭区の活動のなかでこんな会話が交わされているのよ、という笑話のようなものであった。食事会の後であろうか、参加者である当事者と医者がお皿洗いをしながら隣に居合わせ、次のような会話をかわしていたという。「あなたはどちらの病院ですか」「私は○○病院です」「僕は△△病院ですよ」「それじゃ通うのに遠くて大変ですね」。もちろん当事者は患者として、医者は仕事で行く病院のことを言っているわけだが、お互いの立場を語らずにそんな会話を交わせる空間があることに感心したのだ。

「ほっとぽっと」が、当事者、家族、専門家等の切実なニードを受け止め、お互いのやりとりに時間をかけて生み出された熟成した空間であることを実感させるエピソードであった。そして、その具体的なプロセスを『ひとりぼっちのあなたへー仲間・出会い・未来』という冊子で知った。当事者が格闘して生み出した言葉が散りばめられている中でも「納得して生きる、それが自立」は、人の生き方の普遍性をもった言葉として心に残っている。高野さんと川田さんには市民活動と横浜市との協働のあり方を考える「コラボレーションフォーラム」で「市民の会」のお話をしてもらったこともあり、地域コミュニティのあり方を考える「よすが」としてきた。

話は変わるが、横浜市内の市民活動はまさに「開拓民」のような人々によって切り開かれてきたものが多い。「ほっとぽっと」も民設民営の「拠点型生活支援センター」として位置付けられ制度化された。職員もサービスメニューも充実してきたが、その特徴は地域の独自なネットワークに支えられた当事者参加のしきみであろう。介護や子育て支援の市民活動も同じように、当事者や家族の必要に迫られ生み出されてきた。全国の先進事例として国の施策のモデルとなった活動も多い。

しかしここにきて、市民から「制度」に対する葛藤を聞かされることが多くなってきた。本来の自主性、独立性、当事者性が制度の枠に押しつぶされそうだ、という。制度に則っているが故にその改変に振り回され、せっかく培ってきた独自のサービスやネットワークが生かされにくくなっているとしたら、それこそ危機的状況である。市民活動と行政の協働の原則に則り、個々の事業について目標の共有と役割分担のプロセスをしっかりと踏み、地域からみえるニーズに即した枠組みをつくることこそ、今自治体行政と市民活動に求められているのではないか。その手間暇を惜しんではならないと思う。市民の中で「新たな協働のステージ」を考える自主的な勉強会も始まっている。

<元横浜市政策局政策支援センター主席研究員、現横浜市大非常勤講師>

第16回旭区精神保健福祉セミナー報告

平成26年8月2日(土)、大雪に見舞われ延期となっていたセミナーがようやく皆さんにお披露目出来ました。実行委員の皆さまお疲れ様でした(^O^)/

前回に引き続き実行委員長を務めた向山さんに感想いただきました。

(担当職員 塚田)



第16回旭区精神保健福祉セミナー実行委員長 向山淳子

道に落ちているどんぐりを見て、秋を感じる今日この頃…。皆様いかがお過ごしですか?

8月にセミナーが終わり、早くも2ヶ月が経ちます。2月のセミナー(第15回旭区保健福祉セミナー)が大雪で中止になり、涙した日がなつかしく思い出されます。

「はたらく」をテーマにもがき苦しみながら、みんなで考え悩んだ日々。当日は色々な想いでいっぱいになりました。実行委員長あいさつでは泣いてしまいました。会場からの拍手がとても温かかったです。

今回は「はたらくこと」と「多様性」を伝えたいと思い、少し欲張って3部構成のセミナーとなりました。第1部の体験発表では石橋さん(ほっとぽっと)と重久さん(木楽舎)のお二人から貴重な体験談をお話ししていただきました。第2部は千葉県を中心に活躍されている寺田一郎先生(社会福祉法人ワーナーホーム理事長)に実体験を交えた講演をしていただきました。

第3部は引き続き寺田先生にコーディネーターをお願いし、パネルディスカッションを行いました。ゲストに大東コーポレートサービス株式会社の村田洋司社長をお招きした他、病気をオープンにして働く日高さん(日向台病院ディケア)、「はたらく」ことを哲学的に考えてくれた稻岡さん(神奈川病院ディケアWEST)、当事者活動をしている和田公一さん(共に歩む市民の会)がパネリストとして参加してくれました。ディスカッションでは、それぞれの立ち位置から想いを発信し合いました。家族からのメッセージも読み上げられ、たくさんのお客さんからの温かい拍手で無事セミナーは終了。その後行った交流会にも多くの方が参加してくれました。

「はたらく」って何なのか?「自分に納得できること」はどんなものなのか?私は未だに答えが見つかっていません。それでも「はたらく」という言葉に引っ掛かり、イライラしていた自分が、仕事の話をしても少し大丈夫になってきました。はたらくことができない自分にコンプレックスを持っていましたが、「今できることをやればいい」と思えるようになったかな?今回、セミナーに関わってくれた全ての方に感謝をします。ありがとうございました。



ぴあくらぶバスハイク2014

9月18日(木) 千葉の鋸山日本寺



「引率されてたまるか」

ほっとぽっとピアスタッフ 和田公一

「スタッフの誰が引率するの？」

ぴあくらぶのバスハイクの準備中、他の法人の支援職のMさんに言われた言葉。

何だとう(怒)、冗談じゃない、ぴあくらぶのバスハイクは、当事者が企画から何から、色々な手配、準備をしてるんだ。同行するスタッフに、仕事されてたまるかと言ったプライドがある。

考えてみると、私、7年(8年?)連続で、バスハイクの世話をしている。今年は東京湾フェリーに乗って、千葉県、鋸山の日本寺に大仏を見に行ったのだが、フェリーに乗ってのバスハイクは初めてだったので、前日から、てんぱっていた。

つくづく思う、引率するのって大変だなあ。

でも、貴重な体験だと思うし、充実感もある。などと、すべて当事者がやっている様な事を書いているが、事前の準備で、今回はずいぶん、スタッフの木内さん(都合で今回は同行されなかったが)にチカラを借りた。

スタッフに引率されていると言われると腹が立つが、助けてもらっているのも確かだ。

そうだ、一緒にやっていると言うのが実情だろう。共助だ。

でも、当事者が率先して企画し、「スタッフに引率されてたまるか!」という気骨を、特にぴあくらぶの企画において持つ事は、私に限らず、大切だと思う。



ほっとたつな亭 文化班 第15回ギャラリー

公然の秘密 ~偏見について考える宴~ (10月18、19、21、22日)

今回のテーマは複雑だった。作品が集まらないのではないか、テーマが難しい、怖がるのではないかことを考える自分も実は偏見の目でみていることに気づく。そして今回は初の文化班全員の作品として「私は精神障害者です」Tシャツを作った。だれも…、と思ったが何人かが着てくれた。感想に「障害者に偏見をもっている一人ですが、このギャラリーを見て考えさせられました」と聞くとやる意味を感じました。偏見とは無知なり!

文化班 澤田高綱

ほっとたつな亭 第15回ギャラリー

公然の秘密 ~偏見について考える宴~

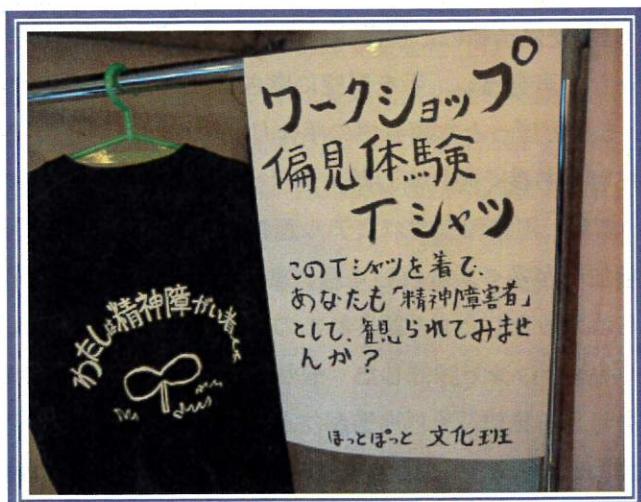
開催期間
10月 18(土) 19(日) 21(火) 22(水)
開催場所: ほっとぽっと別館
(鶴ヶ峰駅より徒歩5分)

11:00~16:00
19日のみ
10:00~15:00

10月
18(土)
19(日)
21(火)
22(水)

主催: NPO法人にぎり牛乳の会/埼玉地域社会連携ネットほっとぽっと
協賛: 埼玉県多文化サポート事業「ヨコマニアサイト2014」
ヨコハマトリエンナーレ2014 出展プログラム

Yokohama art faire ヨコトリ ヘイゼン



秋の一日はこうして暮れた

～2014 旭区民まつり参加レポート～

今年の旭区民まつり（10月19日開催）には、「あけぼの会によるバザー」と「文化班企画ギャラリー」を中心として、公園は使用せず小規模で参加しました。

絶好の秋晴れに恵まれたこともあり、鶴ヶ峰の街は大賑わい。「道の奥（みちのく）」のほっとぽっと周辺にも人が訪れました。中でも、村木雄一さん（葦の会）をはじめとする七人のケアクラウンの前にはずっと子供たちの輪が。毎年来ているという子に「年に一回しかないからもっと…」とせがまれたりしながら、クラウンさんたちは色とりどりの絵を描いてあげたりバルーンをキュッとこしらえたり。まつり会場であんなにいつも子どもが集まっている場所は少なかったのでは？と思います。

本館ガレージのクラウンさんの横の玄関前ではミニフリマ「ほっとぽっと商店」が店開き。気合の入っていた女性店長さんより一言。

フリーマーケットは小学生以来だったので、とても楽しかったです。手づくり品を売れて、うれしかったです。2年前から区民まつりの出品を目標にしていたので、夢が叶いました。ありがとうございました。〈渡辺さん〉

本館内の休憩・情報コーナーでは公開 SST 開催。出入り自由の参加者たちをいつのまにか場へ誘い込んでいく「田栗マジック」は今年も健在でした。

別館前での閉会式。トリは旭区の藤山一郎ことフルカワさんを先頭に「ぼ～くらはみんな生きている～」を高らかに合唱。秋の一日があっという間に暮れていきました。〈事務局 川田〉

みんなで楽しんだ“区民まつり” 長谷川京子（あけぼの会）

10月19日（日）は、去年の雨の区民まつりと違って、さわやかで青空いっぱいの一日でした。

10時半頃、私達だけの開会式。鶴ヶ峰連合会長 峯宇様のご挨拶。つづいて、旭福祉保健センター長 安孫子様のご挨拶、最後に、あけぼの会の志澤さんの力強い言葉と、みんなで「エイエイオー」と声を出し、手を青空に突き上げ、さあ開店です。

ほっとぽっと本館会場の手作り品や小物、別館会場の食器や秋冬ものの衣類もおかげさまで順調に気持ち良く売れました。当日、朝早くからお手伝い下さった方々にお礼を申し上げます。

また、別館和室でパステル画の作品展示と、誰でも参加できるパステル画教室を開催。今年は、参加者が多く、うれしく思いました。当事者の方が作品を見て、「自分の心の中のイライラが沈められホッとした」と話されたのを聞き、担当者の方からは「とってもうれしかった」と聞きました。

別館サロンで開催した「公然の秘密」、本館内の情報コーナーと、より良いコミュニケーションを考える集い、チビッ子が並んで待っていたケアクラウンによるフェイスペインティング（みんなかわいかった）、別館玄関の手織りの展示、どれもみんな素敵でした。

（あけぼの会会報より転載）



『計画相談って知っていますか？』

◆9月24日(水)会員のつどい(やみなべ会)報告◆

[参加者は9人でした。出席した2人の方の感想です。]

川田施設長から、「計画相談」について具体的な事例を交えて分かり易く説明して頂きました。「計画相談」とは、障害を持つ方が自分の希望に沿って、地域で生活するためにどんな障害福祉サービス等を利用していくかを計画して、その実行を支援してもらえる制度です。多くの当事者の方に活用して欲しいと思いますが、今回、当事者はやみなべ会によく参加される数名だけの参加でした。

あけぼの会・浅田和徳さん

自分で決めていい、自分で選んでと簡単に言うけれど、選ぶことは苦しい。意思決定できる人とできない人がいるし。たとえば、親と意見が食い違った場合に自分の意見を通せるかどうか。考え方は人によって違うがそれをどこまで認めてもらえるかも不安。考えが変わることだってあるけど、一度言うと縛られてしまうのではないか。

自分で言えない人にとって意思の確認にはなるかもしれないけど、一人ひとりやるために大変なマンパワーが必要になるね。結局、周りの人に合わせて「ここまでいい」と妥協や遠慮してしまいそうな気がする。 当事者・木下雅弘さん(談)

やみなべ会特別企画・保土ヶ谷病院 新病棟見学会（11/8）レポート

朝9時半、鶴ヶ峰バスターミナル発のバスに15人が乗り込みました。現地集合組と合わせ総勢21人。半数が家族会の方、あと半分が当事者、ボランティア、関係職員です。10時、見学会スタート。6月にオープンしたばかりの新A病棟を（患者さんが未だ入っていないフロア中心に）約1時間にわたって案内していただきました。広い廊下と明るい病室、窓からの眺望もなかなかで、全体にゆったりとしています。

続いて大辻院長よりスライドを交えてのお話・・・建物は南北56、東西44メートルあり、今回出来た病棟が274床、既存の病床を合わせて全部で393床であること。新病棟に19ある保護室の入り口の巾をベッドごと出入りできるよう広く確保したこと、作業療法を開始する予定である等の説明でした。参加者の質問は面会、電話、病室の仕切りカーテン、投薬内容といった身近な話題について出されました。病床削減が言われる中での運営方針は？という突っ込んだ質問に対しては、「家族のマンパワー不足や疾病構造の変化（神経症圏やうつ病圏の人の増加等）に対応ていきたい」との院長の説明がありました。今日のような内覧会はいつでも受け入れるので気軽に連絡して下さいとのことでした。その後、デイケア棟なども案内していただき病院見学会は12時頃終了。

病院前の坂道を左方向へゆっくりと下ること十分足らず、木造家屋の地域活動支援センター「むくどりの家」に到着。ひと休みしながら内田由里子からの施設紹介があり、その後交流会となりました。メンバーとして唯ひとり参加されていた重久朝子さんは保土ヶ谷病院での7年に及ぶ入院生活を体験し、むくどり通所をきっかけに退院し現在アパート生活を送っておられます。彼女の思いのこもった語りに皆さんじっくり聞き入っていました。皆さんの病院見学の感想は、「以前の病棟とは隔世の感がある」「整備されていてシステムチックな感じ」「地域の声を届け良い病院になってもらいたい」「体験から言って病院の良し悪しは結局‘人’次第だと思う」といった声が聞かれました。それぞれのお話に学ぶことの多く、空腹も忘れて聞き入った一時間でした。

今回、共に歩む市民の会の日ごろのネットワークを活かして見学会を行うことができました。窓口となりお骨折りいただいた保土ヶ谷病院相談室の中村さんをはじめ、あけぼの会会长の浅田さん、むくどりの家の内田さん他の方々、どうも有り難うございました。

（レポーター 川田）

2015.1~4月 市民の会・ほっとぽっと スケジュール

★やみなべ会（市民の会会員のつどい）

1月 28日（水）18時～ 場所：ほっとぽっと本館 2階

会費：500円（予定）当日支払い *要予約制 1月 23日（金）18時締切（ほっとぽっとまで）

毎年恒例となりました新年会を開催します！！今年も皆さんとお鍋を囲みながら交流を深められたらと思っています。忙しいとは思いますが、ぜひお越しください！同時に買い出しや下ごしらえなど当日のお手伝いをして下さる方を募集しています！事前の準備として、鍋・ガスコンロの貸出し可！という方や、差し入れがあるよ～っていう人も大歓迎です。よろしくお願いします(*^-^*)

★3月やみなべ会 場所・内容は未定です。改めて通知します。

街の小さな文化館 ほっとたつの亭

お問合せ・予約先はほっとぽっとまで。

★「ギターで奏でるポピュラーソングコンサート」 1月 16日（金）14:00～16:00 別館サロン

出演：植木啓示（ギター）、横山貢介（ギター）、松井イチロー（パーカッション）

横浜在住のミュージシャン三人組によるコンサート。それぞれの持ち味を生かして、皆さんのがよく知っている洋楽ポップスからジャズ、ボサノバ、そして植木啓示氏によるオリジナル曲まで様々なジャンルの音楽を演奏します。楽器の紹介なども交えた楽しくてアットホームなコンサートです。皆様お気軽にお越しください。

（演奏予定曲） *星に願いを *大きな古時計 *マイシェリーアモール *セプテンバー

*イバネマの娘 *植木さんのオリジナル曲も演奏

料金：一般 1000円、市民の会会員 800円、障害者手帳をお持ちの方 500円 予約優先で定員 25名。

★『ちより朗読会』 読みたいものを持ち寄ろう！ 3月 31日（火）14:00～16:00 別館サロン

読みたい人は、おひとりさま 10分×8人まで 読みたい人もききたい人も 100円

《理事会報告》

・(第46回) 10月 29日（水）18:30～21:30 理事9名、瀬崎監事、川田るみ職員 出席11名

① 上半期決算並び下半期事業計画・予算について②今後の市民の会のあり方について

② 法人10周年企画について④職員雇用について 他

「ほっとぽっと」と「市民の会」の今後のあり方について話し合い、「市民の会」の理事の高齢化や制度の変化もあり、ほっとぽっとと市民の会が一緒になって考えていくことが必要です。理事会へ職員も参加していくことの必要性が審議されました。<報告 高野>

★会費納入のお願い：H26年度の会費未納の方は、納入下さいますようよろしくお願い致します。

編集後記

✿今年もあっという間に師走。もの探しに追われる毎日です。交代の時期ですネ…高野
✿会報はみんなのパワーの結集！一人ひとりの協力に感謝です。

楽しいですよ～(*^ω^*)／…清水

✿今回から新しいメンバーで広報作りです。みなさんも一緒にいろんな発信しませんか？
…高木

